

「デジタル・シティズンシップ」

⇒デジタル技術の利用を通じて、
社会に積極的に関与し参加する能力
(欧州評議会)

「デジタル・シティズンシップ教育」の 6つのテーマ

(Common Sense Education)

メディアバランスとウェルビーイング

⇒生活とネット利用のバランスを考えよう

セキュリティとプライバシー

⇒自他のプライバシーに気を配ろう

デジタル足あととアイデンティティ

⇒ネット利用の影響を考えよう

対人関係とコミュニケーション

⇒相手を大切にされた行動を心がけよう

ネットいじめ、もめごと、ヘイトスピーチ

⇒正しい判断力と勇気をもとう

ニュースとメディアリテラシー

⇒批判的思考と想像力をもとう

子どもの発達やデジタル
機器の活用スキルに応じて、
段階的に育成しましょう。



大切なのは、 家族の対話です



子どもたちのデジタル・
シティズンシップを育てる
ために必要なことは、親子で一緒に
課題（疑問や困りごと）に向き合い、
対応することです。そのためには、
「対話」を通じた約束づくりが大切です。

～家庭の約束をつくる際のヒント～

① 時間の約束ではなく、行動と結び付ける

子どもたちにとって、オンラインでのつながりは
とても貴重なもの。時間で区切ることで、友達との
つながりを絶つことにもなりかねません。時間と行動
を結び付けたルールを考えましょう。

(例) 「寝る前の1時間や食事の時間は
端末をテーブルに置く」



② 状況に応じて優先順位を決める

今は何を優先して行動するべきかを考えて、それ
によって使う頻度や時間を決めることが大切です。

(例) 「試験前は動画視聴を減らして、
その分、試験の後は少し長めに
見てもよい」



③ 守りにくい約束で子どもに負担をかけない

達成するのが難しく、縛りの強い約束だと子どもは
ストレスを感じたり、反発したりするかもしれません。
「守れなかったら取り上げる」という
ルールよりも、なぜ守れなかったのかを
対話を通して一緒に話し合うことの方が
ずっと子どもの成長につながります。



家庭で育む 「デジタル・ シティズンシップ」



家でも学校でもデジタル機器がすぐそばに
ある子どもたち。今やデジタル機器は子ども
たちにとって、切っても切れない存在です。

日頃から頻繁に触れているものだからこそ、
デジタル機器から子どもたちを遠ざけたり、
利用を抑制したりすることは、もはや不可能。

これからは、デジタル社会で生きていること
を大前提として、その中でよりよく生きていく
ための力「デジタル・シティズンシップ」を
身に付ける必要があります。

～デジタル入門期～



～デジタル活用期～



～デジタル発展期～

メディアバランスとウェルビーイング

Q. メディアの利用と、睡眠や食事、家族との時間などをバランスよく両立させるには？

◎一緒に使いながら、自立する基礎をつくりましょう

- ・デジタル機器を使う際は、大人が許可を出す／出来るだけ一緒に利用する

◎使うときの約束や、終わりの合図を決めましょう

- ・(例) 動画を見るのは15分まで。15分経ったら合図を出す「いったん手を止めよう」→「深呼吸」→「はい終わり(利用終了)」

◎大人も自分のよりよいメディアバランスとウェルビーイングを考えましょう

- ・大人が善き手本となる
- ・子どもと一緒にメディアバランスについて話し合う



セキュリティとプライバシー

Q. 個人情報やプライバシーを守るためには、どのようなことに気をつければいい？

◎ネット利用にはさまざまな責任が伴うことを理解させましょう

- ・見知らぬ人が存在するネットの世界で求められる立ち振る舞いについて、子どもと一緒に話し合う
- ・自分や他の人を特定できる情報(個人名や地域名、誕生日等)を公開していないか確認する

◎安全に使用するための設定・環境づくりに取り組みましょう

- ・OS事業者が提供するフィルタリングサービスなどの「ペアレンタルコントロール」を活用し、利用時間や利用内容を把握する



デジタル足あととアイデンティティ

Q. SNSを使ったり、さまざまなサイトを見たりする際に気をつけることは？

◎オンラインでの活動は全て記録・利用されること(デジタル足あと)を意識させましょう

- ・ネットの世界は“公共の場”であり、不特定多数の人から行動が見られていることを伝える
- ・日常の考えや行動の記録としてデジタル足あとを残すことは、将来の子どもの自信につながったり社会参加のきっかけになったりする

◎ネット上の人格(アイデンティティ)を演じることの影響を考えましょう

- ・“盛る”“映える”投稿で違う自分を演じたいと思うことは、心理的な成長過程の一つ
- ・周りの期待にこたえようと、偽りの人格を演じて疲れたり悩んだりする際には、無理する必要はないことを伝える



対人関係とコミュニケーション

Q. オンラインで人とつながる時期、子どものネットでのやりとりをどう見守ればいい？

◎安全な場所で、小さな成功と失敗の積み重ねを経験させましょう

- ・家族や学級など対面でもやりとりできる(すれ違いが起こっても意図を確認し合える)範囲でオンライン・コミュニケーションをとらせる

◎監視するよりも一緒に振り返り、よりよいコミュニケーションを考えましょう

- ・子どもが普段からオンラインでどんな人と会話をしているか尋ね、関わり方の工夫を一緒に考える

◎どんなコミュニティか、相手がどんな人物か意識するように伝えましょう

- ・ネットでのやりとりの作法も、基本的には対面と変わらない
- ・アイコンやコメントだけで、その人を判断しない



ネットいじめ、もめごと、ヘイトスピーチ

Q. ネット上でのいじめやもめごとに対してどう向き合えばいい？

◎バイスタンダー(いじめを見ているだけの人)ではなく、アップスタンダー(誰かを支え立ち上げる人)に育てましょう

- ・いじめられている人を助けることで、状況が良い方向へ向かうことを伝える(直接伝える／いじめられている人にDMを送って話を聞く等)

◎トラブルを恐れてネットと引き離すのではなく、子どもの対応力を育てましょう

- ・子どもと一緒にトラブルについて話し合い、将来起こりうるトラブルにも適切に対応する経験を積ませる

- ・トラブルに巻き込まれたと感じたら…

- ①一旦その場を離れる
- ②気持ちを落ち着かせる
- ③信頼できる大人に相談する



ニュースとメディアリテラシー

Q. ネット上にある多くの「ニセ・誤情報」にだまされないようにするには？

◎批判的思考と想像力を育てましょう

<情報の受信者として>

- ・ネット上の情報をそのまま鵜呑みにせず、真偽を確かめることを習慣づける
→情報源はあるか／他のサイトではどうか／画像は本物か等
- ・「知り合いが言っているから」という理由だけで正しい情報だと信用しない

<情報の発信者として>

- ・自分が情報を発信することで、どのようなことが起こるかを想像させる
→不確かなことは拡散しない／誰かを傷つけるかもしれないと考える／送信ボタンを押す前にひと呼吸等

